

Heat Media  
**日本物流新聞**  
 THE NIHON BUTSURYU SHINBUN

2017 5 / 25  
 No.1387号  
 10日・25日の月2回発行  
 (昭和37年3月10日第3種郵便物認可)

発行所 株式会社 日本物流新聞社 ©  
 本社 〒550-8660 大阪市西区立本堀2-3-16  
 TEL (06)6541-8048(代) FAX (06)6541-8056  
 E-mail: nb-osaka@nb-shinbun.co.jp  
 ホームページ http://www.nb-shinbun.co.jp/  
 東京支社 〒108-8217 東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル12F  
 TEL (03)6712-1391(代) FAX (03)6712-1398  
 E-mail: tokyo@nb-shinbun.co.jp  
 購読料 年間8,000円(消費税別) 郵政口座00910-3-23940

昭栄産業

# ポスト創業75周年 テクニカルフェアを開催

## 精密・自動化に焦点、県内初出品機種に注目

昨年、創業75周年を迎えた昭栄産業(新潟市、平澤利明社長)は5月19日と20日の両日、燕三条地場産業振興センター(新潟県三条市)で第36回「STF昭栄テクニカルフェア」を開催した。



昭栄産業の平澤利明社長

工作機械メーカー17社、機械工具・産業機器メーカー42社が出席。工作機械はJIMTOF 2016出品機をはじめとする全27台、うち県内初出品が21台と充実のラインアップで注目を集め、県内外の製造事業者405社1037人が来場した。

開会式で平澤社長は「今年はお隣の新潟県企業に向けたスタートの年。伝統とは革新の連続だ。STFのフェアも今までとは切り口を変えて精密部品加工、自動化精密加工・金型の3つに展示ゾーンを分け、「価値ある提案営業」をさらに推進する」と表明した。出展メーカーを代表して挨拶したミツトヨの沼田恵明社長は「IoTや自



碌々産業の微細加工機「Android II」を県内初出品

動化など、今はまさにパラダイムチェンジの時代。この新潟から日本のモノづくりを元気にしていこう」と士気を鼓舞した。

昭栄産業の前年(16年6月期)の業績は売上・利益とも過去最高を記録。平澤社長は本紙の取材で「今期は売上こそ落ちているものの受注は今年2月以降プラスに転じ、今期10カ月の受注ペースは前期比110%。県内企業は業種を問わずほぼ全方位好調で、特に自動化や精密加工・金型関連の投資意欲が強い」と話した。

会場では、昭栄産業が微細加工機「Android II」を県内初出品。機械、工具、CAD/CAMの三位一体で加工の高精度化を実現できる例としてユニオンツール、C&Gシステムズとコラボしたサンプルワークを展示し、「ロングネック小径のCBN工具でも刃先の振れを1ミクロンに抑えられ、80個以上ある突起のピッチ精度も1ミクロン以下。テーパ面も高精度に仕上げられる」と同社と説明した。

三井精機工業の高精度ジグ研削盤「J350G」も県内初出品機として注目を集めた。「世界最大の砥石自動切込ストロークに拡大し、特に金型ダイブレートなどの高効率化で好評」と奥田哲司社長と話す。

精密部品加工ゾーンではシチズンマシナリーがCNC自動旋盤3種を展示し、「切粉がつからないLFV(低周波振動切削技術)搭載機種を中心に、新潟県内などで爆発的に売れている」と同社。また、自動化ゾーンでは不二越の6軸多関節ロボを用いたバリ取り工程の自動化などのか、無人搬送台車(日本電産シンボ)、人と働ける協働ロボ(ファナック、TDK等)を提案した。



会場の様子